

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年10月8日

枚方市立五常小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

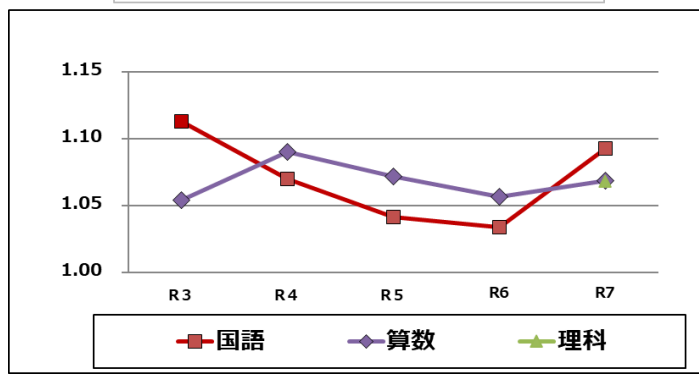
※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の平均正答率（対全国比）をお知らせします。

（全国の平均正答率を1とした経年比較）



<学力調査結果の概要>

○国語について

「話すこと・聞くこと」について、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる出題があった。

→自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることはできていた。一方、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして、必要な情報を見つけることに課題がみられた。

○算数について

数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について統合的、発展的に考察できるかをみる出題や日常生活を題材に、伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を考察したり、目的に応じて表やグラフからデータの特徴や傾向を考察したりできるかどうかをみる出題があった。

→異分母の分数の加法の計算をすることができているが、一方で、数直線上の1目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えることに課題がみられる。また、伴って変わる二つの数量の関係において、必要な数量を見いだすことはできているが、百分率を用いる場面において、倍を使って捉えなおし表現することに課題がみられる。さらに、棒グラフから項目間の関係を読み取ることはできているが、目的に応じて適切なグラフを選択し、出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がみられた。

○理科について

問題解決するまでの道筋を構想し、根拠のある予想や仮説を発想したり、解決方法を発想したりするなど、自分の考えを持つことができるかどうかをみる出題や自然の事物、現象に働きかけることで得られた様々な情報について、要因や根拠を見いだすことや観察実験などの結果について、その傾向を見いだしたり、考察できるかどうかをみる出題があった。

→赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、結果やまとめを基に、他の条件での結果を予想することができた。一方で、電気が通る回路のつくりについて理解し、表現することに課題がみられた。

国語科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

<問題の概要>

目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる

(1) 【話し合いの様子】の A に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 【資料1】の 部①

2 【資料1】の 部②

3 【資料1】の 部③

4 【資料1】の 部④

(2) 木村さんは、【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましよう。

〈条件〉

- 言葉の変化についてなっとくしたことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- なっとくした理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

【資料1】

言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなっていたり、使い方が変わっていたりする場合も少なくありません。

ですから、意味や使い方に揺れが生じている言葉について、「この使い方だけが正しい」と決めつけるのは短絡的ともいえるでしょう。①この本を読むとお気づきになるとありますが、文化庁国語課では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに、②「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。言葉の正誤を軽々しく決めることはできないと考えるからです。

とはいえ、どんな言葉を使ってもいい、というわけではありません。③コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。

④「言葉は生きている」とも言われます。その広がりや深さにも、触れていただきたいと考えています。

こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料1】に「A」と書かれているとおりだと思うよ。



田中さん

【資料2】

「あたらしい」は新しい形

「ふんいき」ということを「ふんいき」と言う人が多くなりました。こう言うと、「たいへんだ、日本語がこわれてしまふー」と思う人がいるかもしれません。でも、心配しないでください。にたようなことは、昔からよくあることです。「できたばかり、まだ古くない」という意味で、私たちは「新しい」と言います。でも、大昔の奈良時代には、「あらたし」と言っていました。今でも、「新しく」という意味で「あらたに」と言うでしょう。「あらた」は、大昔から使われていました。ところが、次の平安時代には「あらたし」が「あたらし」になりました。「た」と「ら」の順番が入れかわっていますね。つまり、「あらたし」に比べれば、「あたらし」は新しい形です。それが変化して、今では「あたらしい」になりました。

(飯間浩明『日本語をつかまえろー』による。)

【資料3】

とてもできる?できない?

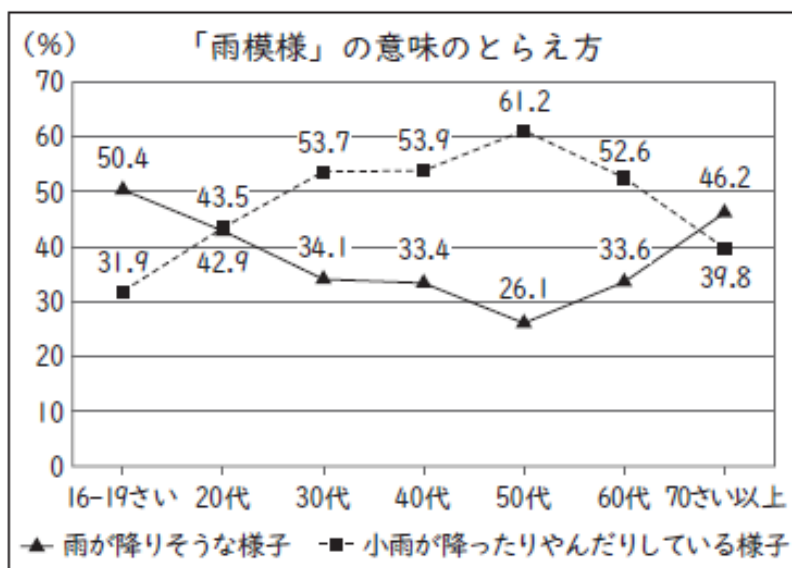
今、あなたは「勉強がとてもできる」という言い方を変えたとは思わないでしょう。「とても」は「非常に」の意味を表します。ところが、100年ほど前の大正時代、作家の芥川龍之介は、「とても安い」「とても寒い」という言い方は新しいと書いています。それより前の時代には、「とてもかなわない」「とてもまならない」のように、「とても」の形で言ったというのです。つまり、大正時代よりも前は、「勉強がとてもできる」とは言わず、「ぼくには、そんなことはとてもできない」と言っていたんですね。この場合の「とても」は、「どうしても」「とうてい」という意味を表します。

こんな話を聞くと、「じゃあ、これからは『とてもできない』と言おう、『とてもできる』とは言わないようにしましょう」と思うかもしれません。でも、その必要はありません。

もっと古い時代、室町時代には、「とても」は「どうせ」の意味で使っていました。たとえば、「とても散るべき花」と言えば、「どうせ散る花」という意味です。

ことを昔の意味だけで使おうと思ったら、現代では暮らせなくなってしまう。「昔はどうだったか」を知ることは大事ですが、「現代ではどう使われているか」を理解することも大事です。現代の人は、ことを現代の意味で使うのが一番いいのです。

(飯間浩明『日本語をつかまえろー』による。)



(文化庁『令和4年度国語に関する世論調査』による。)

<考察>

設問3三(2)は、【資料1】を読み返し、年月とともに変化する言葉について、自分が納得したことを【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを根拠としてまとめる問題である。

本設問の正答率は70%となった。この結果から、児童は目的に応じて、【資料1～4】の文章と図表などを関連づけながら、見つけ出すことができていると考えられる。

文章の要旨を捉えたうえで、図表が文章のどの部分と結びつくかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択・整理・再構成する力が、普段の授業の中で育成されていることを示している。

一方、設問3三(1)は同様の趣旨の問題であったにもかかわらず、正答率は45.7%にとどまった。このことから、【資料1～4】の内容の大枠は理解しているものの、【話し合いの様子】の流れを的確に捉えることができなかった児童も一定数いたと考えられる。

今後の授業は、複数の資料を関連づけて読む学習活動を設定し、それぞれの資料の関係性を意識しながら読む指導を一層大切にしていきたい。

算数科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

<問題の概要>

日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係について考察できるかどうかをみる

保健委員のあさひさんたちは、手を洗うときに使っているハンドソープ^{あら}について話し合っています。

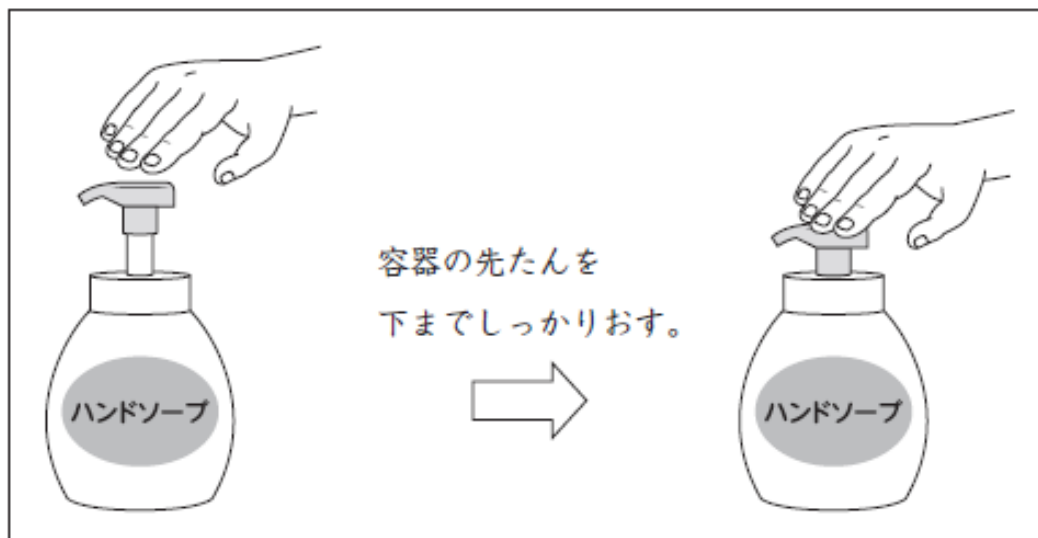


あさひ

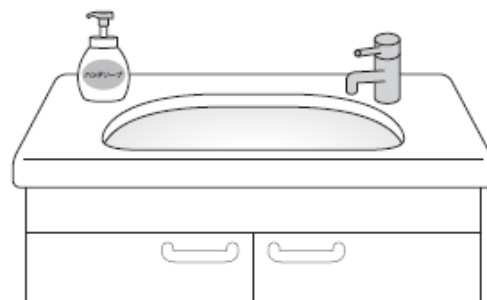
ハンドソープを空になるまで使うとしたら、何プッシュすることができるのかを知りたいです。

「プッシュとは、容器の先たんを下までしっかり「回」おすことです。

「プッシュしたとき、ハンドソープの液体が毎回同じ量ずつ出ることとします。



- (1) まず、あさひさんは、保健室にある新品のハンドソープを空になるまで使うとしたら、何プッシュすることができるのかを考えています。



あさひ

保健室にある新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が240 mL 入っています。

新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が240 mL 入っています。

新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、240 mL の他に何がわかればよいですか。

下の ア から エ までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

ア | プッシュ分のハンドソープの液体の量 3 mL

イ | プッシュするときにおす長さ 2 cm

ウ あさひさんが1日にプッシュする回数の平均 8 回

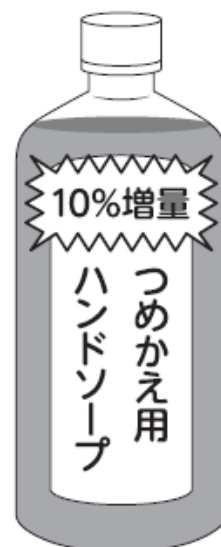
エ あさひさんが手を洗うときにかかる時間の平均 60 秒

- (4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10 %増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mL です。



増量前
(800 mL)



増量後

倍

増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。

上の㊦にあてはまる数を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- | | |
|---|-----|
| 1 | 0.1 |
| 2 | 1.1 |
| 3 | 10 |
| 4 | 110 |

<考察>

設問4(1)は、新品のハンドソープが空になるまでに何回プッシュできるかを調べるために、必要な事柄を選択する問題である。

本設問の正答率は88.6%であった。この結果から、児童は伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができていると考えられる。

日常生活の問題を解決する際、一つの数量を調べにくい場合には、その数量と関係のある他の数量を活用して考えることがある。今回の結果は、児童が事象を観察し、二つの数量の関係に着目して必要な数量を導き出す力が、普段の授業の中で育成されていることを示している。

一方、設問4(4)は、10%増量した詰め替え用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍になるかを選択する問題で、正答率は41.4%にとどまった。1を選択する誤答がみられたことから、児童は「10%が百分率で0.1」であることは理解しているものの、「10%増量」とは、増量前の1.1倍になるという考え方まで結びつけられていない児童が一定数いると考えられる。

今後の授業では、二つの数量の関係に着目して、必要な数量を見いだす活動に加え、基準量・比較量・割合の関係を正しくとらえる指導を一層大切にしていきたい。

理科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

<問題の概要>

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる

としやさんとあかりさんは、学校の花だんに入れた、^{あかだまつち}赤玉土という土を見て、気づいたことを話しています。

赤玉土のようす



つぶの大きさに分けた赤玉土



大きいつぶ
約 16 mm



中くらいのつぶ
約 11 mm



小さいつぶ
約 6 mm

赤玉土のつぶの大きさは、いろいろあるね。



としや



あかり

「水のしみこみ方は、土のつぶの大きさによってちがいがあ
る」ということを学習したけれど、赤玉土でも同じ
なのかな。水がしみこむ時間で比べてみよう。

あかりさんたちは、次のような【問題】を調べることにしました。

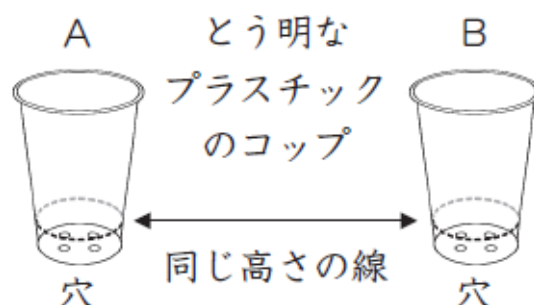
【問題】

水のしみこみ方は、赤玉土のつぶの大きさによって、ちがいがあ
るのだろうか。

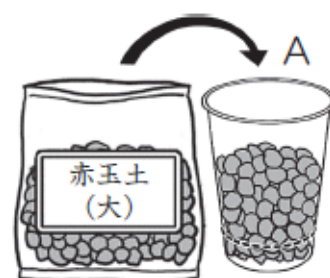
あかりさんたちは【問題】を、大きいつぷと小さいつぷの赤玉土^{あかだまつち}で確かめる【方法】について考えました。

【方法】

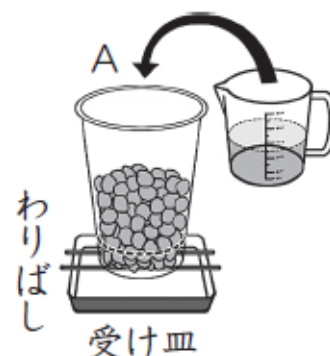
- ① どう明なプラスチックでできた
2つの同じコップに次のことをする。
- ・ 4つの穴^{あな}を同じようにあける。
 - ・ 同じ高さの線を図のように引く。
- これらを穴あきのコップA、Bとする。



- ② 土をふくろから取り出し、次のように入れる。
- ・ コップAは大きいつぷの赤玉土
 - ・ コップBは小さいつぷの赤玉土



- ③ コップAに水をすばやく入れ、時間をはかり始め、
水の面が同じ高さの線に下がるまでの時間をはかる。
コップBも同じようにして時間をはかる。

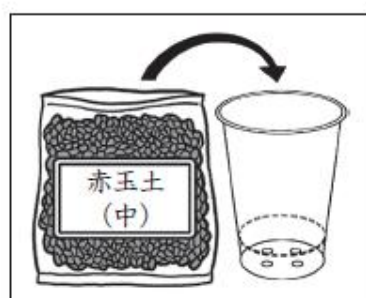


- ④ 受け皿にたまった水、コップの土や水を
すべて出し、②と③を全部で3回行う。

【結果】

あかだまつち
〈赤玉土に水がしみこむ時間〉

	コップA (大きいつぷ)	コップB (小さいつぷ)
1回目	3秒	11秒
2回目	4秒	10秒
3回目	4秒	11秒



これまでわかったことを使えば、
中くらいのつぷの赤玉土^{あかだまつち}に、水が
しみこむ時間を予想できそうだね。



(3) 大きいつぶと小さいつぶを比べたときの【方法】と同じように、中くらいのつぶの赤玉土で実験すると、水がしみこむ時間はどれぐらいになると考えられますか。

【結果】をもとにして、【考えられる時間】を下の 1 から 3 までの中から 1 つ、【考えられる時間を選んだ理由】を下の 4 から 6 までの中から 1 つ、それぞれ選んで、その番号を書きましょう。

【考えられる時間】

1 3 秒より短い

2 5 秒から 9 秒までの間

3 11 秒より長い

【考えられる時間を選んだ理由】

4 中くらいのつぶの赤玉土は、大きいつぶの赤玉土より、しみこむのに時間がかからないから。

5 中くらいのつぶの赤玉土は、小さいつぶの赤玉土より、しみこむのに時間がかかるから。

6 中くらいのつぶの赤玉土は、大きいつぶの赤玉土より、しみこむのに時間がかかり、小さいつぶの赤玉土より、しみこむのに時間がかからないから。

<考察>

設問1(3)は、【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ問題である。

本設問の正答率は80.0%であった。この結果から、赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができていると考えられる。

【考えられる時間】を2と選んだ児童が98.6%とほぼ全ての児童であった。しかし、およそ20%の児童は【考えられる時間を選んだ理由】について4と5を選択している。このことから、得られた結果から規則性を見だし、他の条件での結果を予想することができているとすると、選択肢の文章の読み取りに課題があったと考えられる。

今後の授業でも、二つの数量に着目し、必要な数量を見いだすとともに、基準量・比較量・割合の関係を正しくとらえる指導を大切にするとともに、どの教科においても、題意の読み取り、会話の中での意図の読み取りを一層大切にしていきたい。

質問紙調査の結果

枚方市では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進し、自ら課題を見つけ、目的意識を持って学ぶ力や他者と意見を交わしながら、新たな視点や考え方を取り入れる力を育成しています。本校でも昨年度から、児童自身が「誰と、どこで、どのように学ぶか」を、自分で決める学習を研究しています。

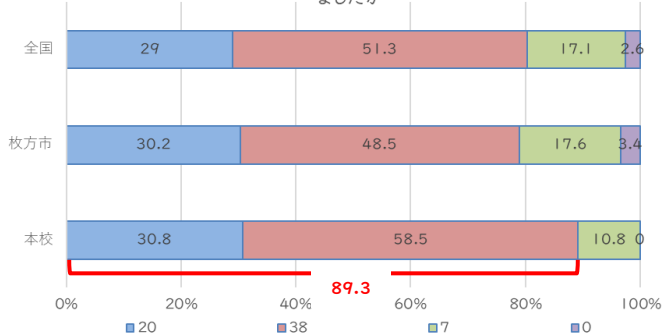
国立教育政策研究所によると、(以後、国の調査)今年度の学力・学習状況調査の質問紙分析結果から、「A.主体的・対話的で深い学び」に関する回答と「※B.ウェルビーイング」に関する回答との間には相関がみられるとあります。

以下に、本校の「A.主体的・対話的で深い学び」に関する回答(左列)と「B.ウェルビーイング」に関する回答(右列)を、左右に並べて示しています。

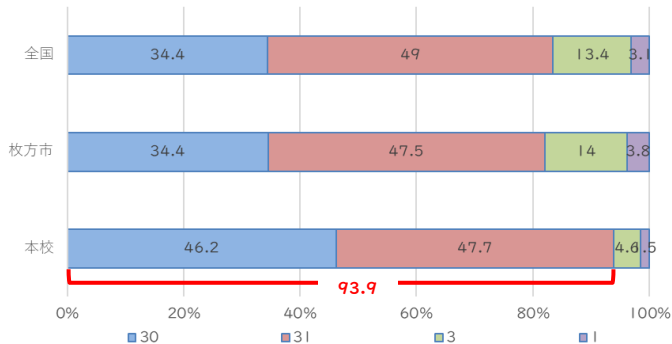
※ウェルビーイング:身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみでなく、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。(2025.01枚方市教育振興基本計画)

「A.主体的・対話的で深い学び」に関する回答

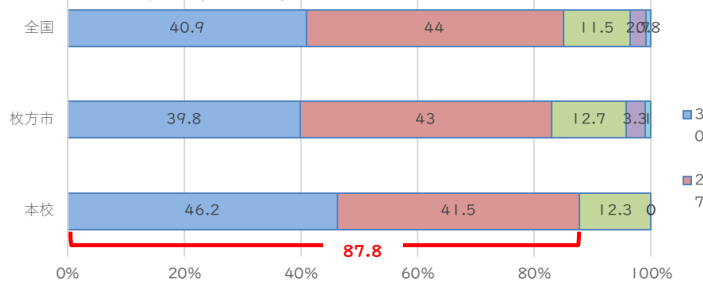
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



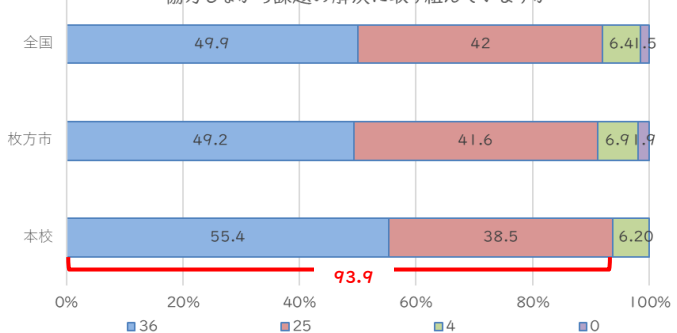
授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

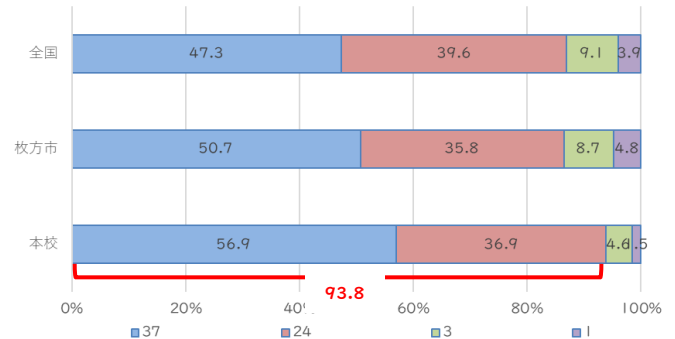


授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

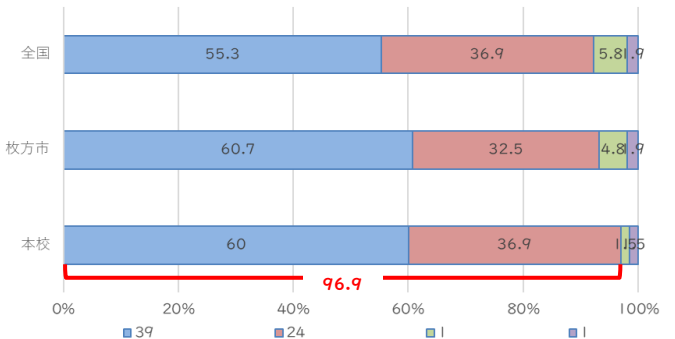


「B.ウェルビーイング」に関する回答

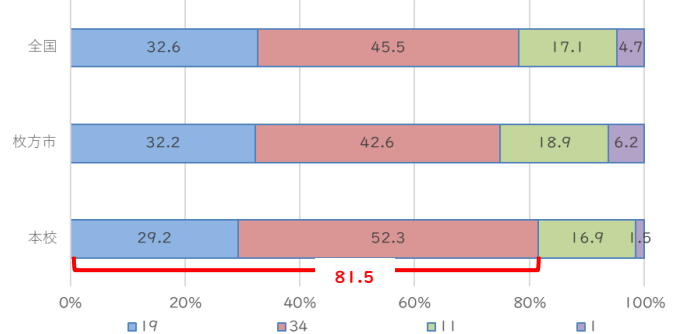
自分には、よいところがあると思いますか



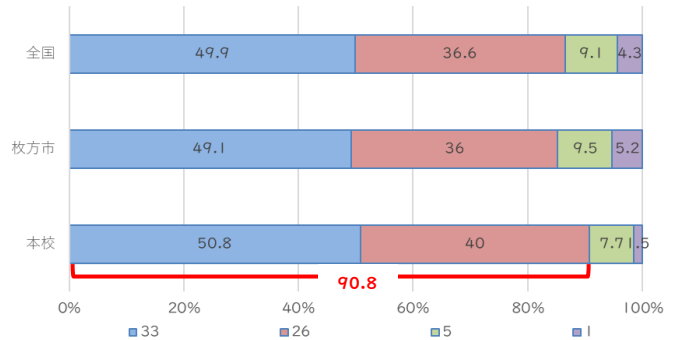
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



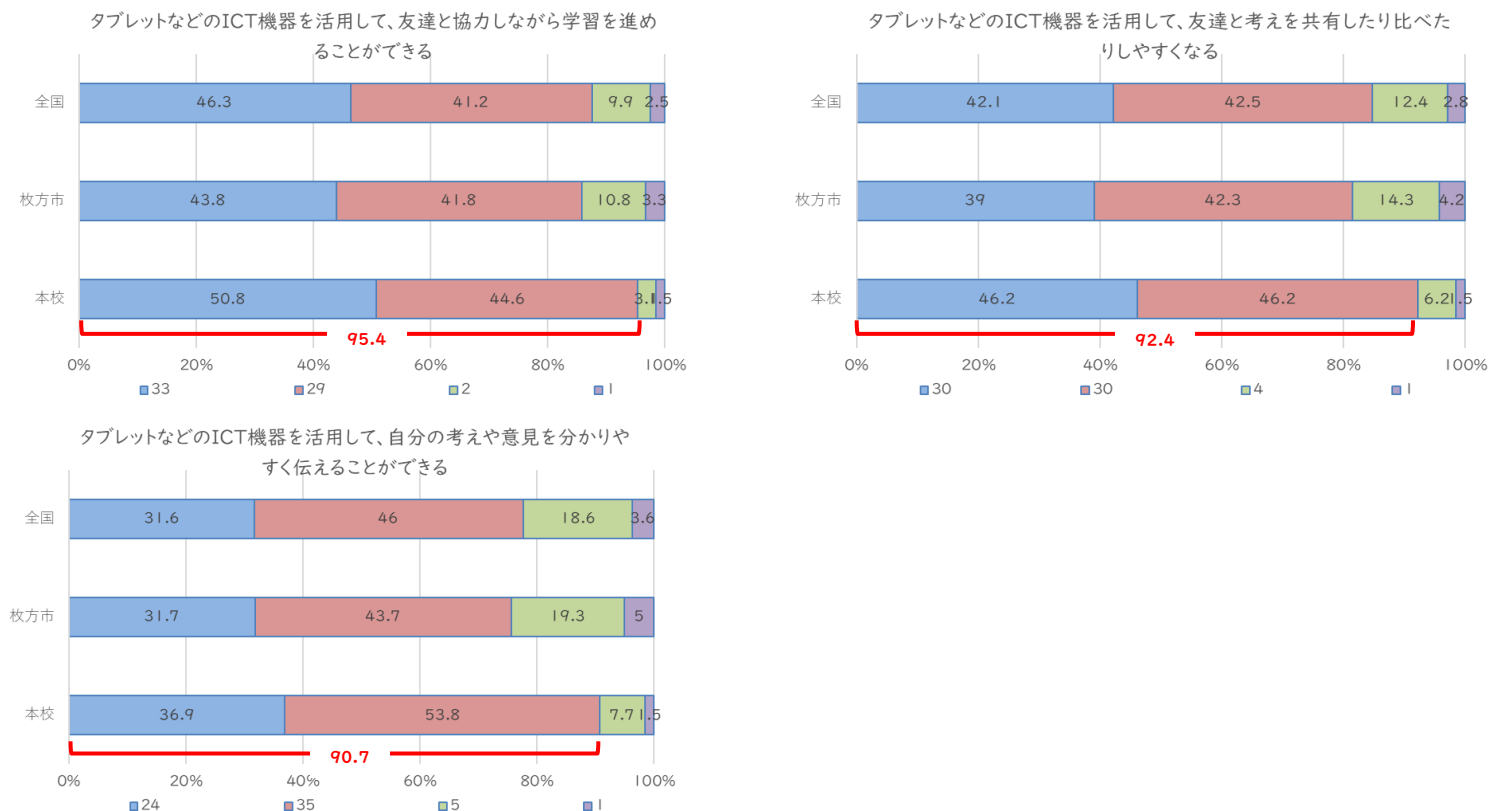
学校に行くのは楽しいと思いますか



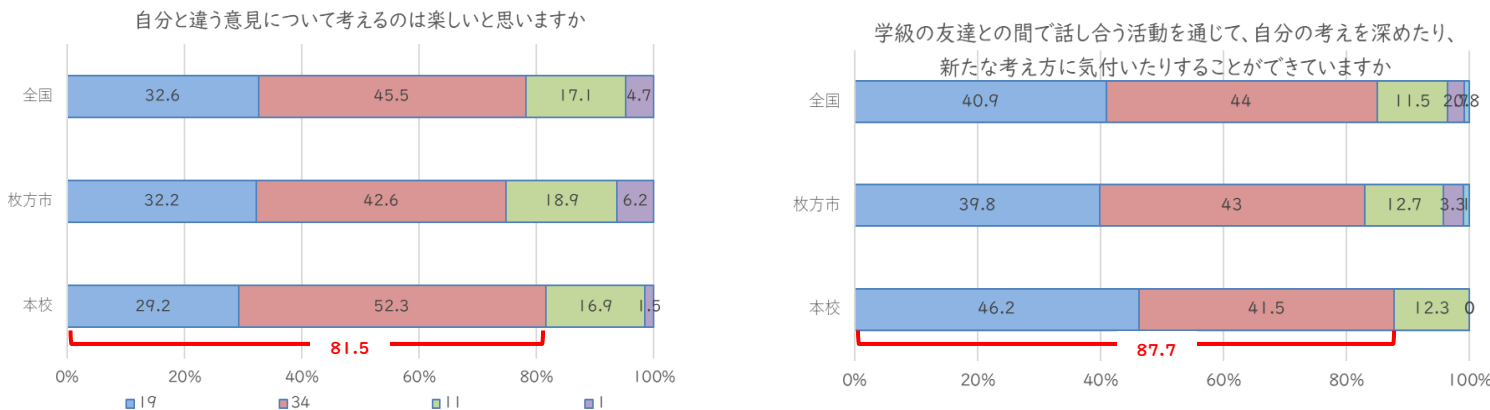
国の調査によれば、「A.ICT機器活用効力感」に関する回答が肯定的な児童ほど、「B.自分と違う意見や新たな考えについて考えること」に前向きな傾向がみられるとあります。

本校の「A.ICT活用効力感」の平均値は92.8ポイント、「B.自分と違う意見や新たな考えについて考えること」の平均値は84.6ポイントと、両平均値ともに全国平均値より高いが、後者のポイントが低くなっています。

「A. ICT機器活用効力感」に関する回答



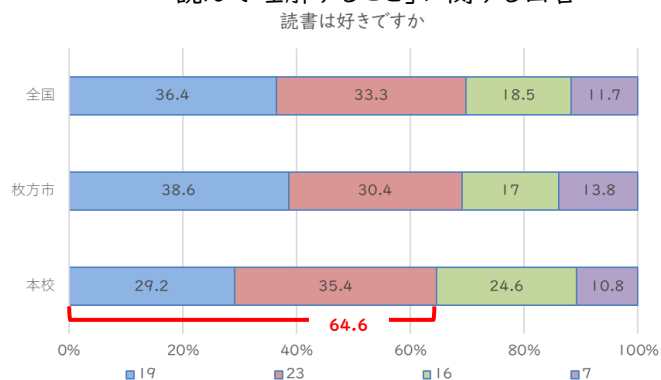
「B.自分と違う意見や新たな考えについて考えること」に関する回答



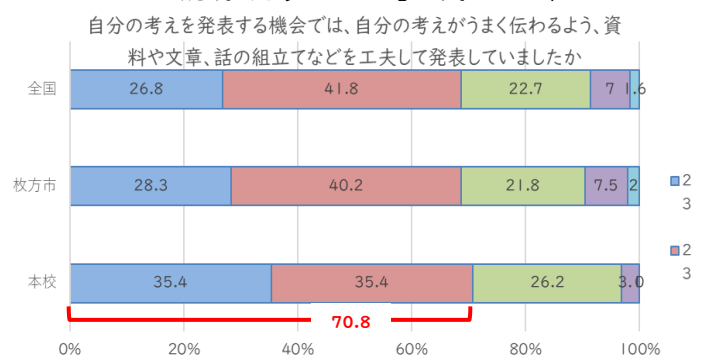
国の調査によれば、「読んで理解すること」、「説明・発表すること」、教科の正答率に関する回答状況を分析した結果、両方肯定的に回答したグループ（読書○発表○）の正答率が、他のグループより高く、いずれも否定的回答をしたグループ（読書×発表×）は正答率が低かったとあります。

本校の「説明・発表すること」の項目は、全国を少し上回っていますが、「読んで理解すること」の項目は下回っています。

「読んで理解すること」に関する回答



「説明・発表すること」に関する回答



※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

本校は「自ら学び、自他を尊重し、仲間と高めあえる子の育成」を目指し、基礎・基本の習得と確かな学力の定着に、学校全体で取り組んでいます。

昨年度からは、児童が主体的に学習方法を選び、学習内容の理解度を深めるため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向け、研究を進めています。授業では、児童自身が「誰と、どこで、どのように学ぶか」を自己決定できる場面を設け、学ぶ楽しさや達成感を味わえる授業づくりを目指しています。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果および国立教育政策研究所の分析結果から、自ら課題を見つけ、目的意識を持って学ぶ力や他者と意見を交わしながら、新たな視点や考え方を取り入れる力が全国平均よりも上回っていました。この成果は、ウェルビーイングの向上にもつながっていると考えられます。今後も自己決定を大切にする授業づくりを継続してまいります。

本校のICT活用効力感は全国的にも高い水準です。国の調査によれば、ICT活用への肯定的な意識は、「自分と異なる意見や新たな考えに前向きに向き合う姿勢」に結びつくと考えられます。ICT機器の技能習得にとどまらず、児童同士の考えを共有、比較し、深め合う学びを通じて、自分の考えを適切に表現したり、他者との違いに気づいたりする力が育っています。今後もICTを効果的に活用し、新しい考えを生み出す力の育成を図ってまいります。

(2) 家庭学習について

国の調査によると、「読んで理解すること」と「説明・発表すること」の両方に肯定的に回答した児童（読書○・発表○）は、教科の正答率が高く、いずれも否定的に回答した児童（読書×・発表×）は正答率が低いという結果が示されています。

本校の「説明・発表すること」の項目は、全国を少し上回っていますが、「読んで理解すること」の項目は下回っています。

今年度から、オビタイム（朝学習）の時間に、週に1回、読書の時間を設けています。ご家庭においては、ぜひ親子で読書に親しんだり、子どもが興味のあることや得意なこと・苦手なことについて気軽に話したりしていただければと思います。こうした取り組みは、読書が「自分の考えを広げる道具」であることに気づかせ、目標をもって学ぶ意欲や学ぶことを楽しむ心につながります。ご家庭での温かい後押しをよろしくお願いいたします。